



The Japan Automobile Maintenance Colleges Association

JAMCA ニュース

No.79

2013 年 10 月 1 日

発行
協会事務局

編集事務局

全国自動車大学校・整備専門学校協会
〒160-0015 東京都新宿区大塚町 31
ヴィップ新宿御苑 ☎ 03-3356-7066
〒125-0002 東京都葛飾区西亀有 3-28-3
☎ 03-3601-2535 FAX 03-3601-2988
ホームページアドレス <http://www.jamca.jp/>

整備専門学校における実践的な職業教育の可能性について

ホンダテクニカルカレッジ 関東校長
全国自動車大学校・整備専門学校協会理事

大木 宏高



昨今高等教育におけるキャリア教育の重要性が注目されており、今後専門学校・大学校も職業教育機関として一段と教育の質が問われよう。とくに車両技術の高度化に伴って、自動車整備士は今まで以上にお客様との信頼構築が求められることになり、学校は人材育成にあたり企業からの要請に適確に応える必要がある。

当校の創設者である本田宗一郎は建学に際して「技術だけでなく、世界から歓迎される人間を作りたい」とその志を語った。技術者にとって技術の習得は勿論大切だが、その技術を生かすためお客様の気持ちに想いを致せる人間性もまた重要である、人の命を預かる自動車技術者においてはなおさらである、という意味である。社会的・職業的自立を促す教育においては、技術・技能の習得のみならず、その業務を遂行するに足る人間力や行動様式の涵養が求められる、それは今も昔もかわらぬ本質であろう。

当校が実施している就職先 CS 調査の結果からも、企業は学生達に対して、技術・技能習得への期待以上に、社会人・職業人として相応しい取り組み姿勢を身につけることを期待していることがわかる。

それでは、職業人として具備すべき人間力とはどんなものか。業務を遂行する上で、課題遂行力、協調性、コミュニケーション力などはいずれも重要である。しかし、何よりも根本的で大切なのは、社会や職場においてものごとに

主体的、能動的にぶつかっていく基本姿勢ではないか。先にあげた諸能力もこの基本姿勢の上に発揮されるものである。

この点で学生達が劇的に成長するケースを紹介したい。自校の事例で恐縮だが、国際自動車整備科(三年制)は、海外で活躍できる技術者の育成を目的に、整備士課程の二年目にニュージーランドに留学させる学科である。学生達はひとたび現地に赴けば、9ヶ月間に亘り単身現地ディーラーで働き、また現地人家庭にホームステイをして生活することになる。頼れるのは自らの片言英語と未熟な整備経験だけという状況の中、彼らは生きるために自分を曝け出し、現地人と向き合い、目的に向かって体当たりでチャレンジする。半年もすると英語に整備作業に自信が持てるようになり、人間関係を作り、自己アピールし、役割を貰う。自分と異質なものを受入れることも学ぶ。そして現地の生活を思い切り楽しめるまでに成長するのである。甘えの許されない環境に身を置くことで、周囲と主体的に関わることの大切さを知り、また思いきって一歩前に踏み出せば大いなる達成感が待っていること

を経験する。このプログラムには単に国際感覚を身につけるに止まらない、自立を獲得するための大切なプロセスが含まれていると感じずにはいられない。このプログラムを終了した学生は、誰もが人間的に一回りも二回りも成長して帰国してくるのである。

ここに挙げたのは特殊な例かもしれないが、たとえば企業インターンシップやクラブ活動、ボランティア活動など、主体的行動を促す仕掛けづくりは工夫次第で様々な考えられよう。重要なのは、すべてが学校のお膳立てによるのではなく、学生自らが手を挙げて参画しその活動にコミットすることである。学生が自らの目標に向かって主体的に取組み、実践的活動から何かを掴む、周囲との関わりから何かを学ぶ、それこそが社会的・職業的自立のための生きた教育ではなかろうか。

企業が採用に際して専門学校・大学校に求める人材像は明確である。実践的な職業教育を行う専門学校・大学校には、アカデミズムを追求する大学とは異なる価値を提供する可能性が大いにあると感じている。

CONTENTS

2 面	自転車事故の危険性について
3 面	我が校自慢
4 面・5 面	一級整備士 将来への期待 ～高度化検討会アンケート調査のまとめ～
6 面	協会トピックス
7 面	活躍!! 卒業生・地区通信
8 面	私の教材活用・お知らせ・編集後記